

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/06/01～2019/06/30)

1. 勉学の状況

先月で前期の授業は全て終わり、6月はテスト月間でした。千葉大学のターム制と違い、モナシユ大学では一つの学期の中で、授業期間（約1ヶ月半）→小休暇（1週間）→授業期間（約1ヶ月半）→小休暇（1週間）→テスト期間（約1ヶ月）という順番で学習を進めます。テストの日はコース毎に指定されており、2度目の授業期間の開始後くらいに既に知らされていました。ですので、自分の分のテストさえ終わってしまえばあとは次の学期が始まるまで休みに入ります。ただどのコースでもテストがあるわけではなく、私が取っていた3つのコースの内、テストがあったのは1つだけでした。しかもテスト日が月末だったので、たった1つのテストのためだけにいつまでも休みが来ないという状況だったので常時ストレスを感じていました。

テスト形式はコース毎に異なると思うのですが、私が受けたものはパソコンを使用したものでした。テスト日の通知と共に会場、指定席の番号まで知らされており、驚くことに私は学外の競馬場の施設内でテストを受けました。キャンパスの近くだったので会場まで迷うことはありませんでしたが、到着するまで本当にそこで合っているのかとずっと不安でした。ただ、会場に着くと千葉大の時とは比べ物にならないほど多くの受験者がいたので、学外の大きな会場を確保しないと公平にテストを行えないのかなと思いました。テスト内容に関しては、幸運なことに事前に

授業内で大まかな内容を知らされていたので、解答するときにあまり慌てることはありませんでした。良い結果が出ることを祈っています。

テスト当日までの間には、先月提出したレポートの評価が返って来ていました。内容にとっても自信があったものの結果があまり芳しくなかったり、一方で時間の関係で納得できるようなところまで仕上げることができなかったと反省していたものが意外に高評価だったりなど、自分の予想を良くも悪くも超えるものばかりでした。一先ず、自分にできることは全部やり切ったと思うので安心しています。ただ、前期全体を振り返って、実際に履修したものよりもこっちの方を取った方が良かったな、というコースを途中で見つけるなど、後悔することもありました。後期では前期の反省も生かし、より実りのある学習ができればと思います。

2. 生活の状況

寮での生活で感じるストレスが限界突破した一ヶ月間でした。特に大きなトラブルがあったわけではないのですが、今まで感じてきていたストレスが爆発したような感じでした。テストによるストレスもあったので、かなり辛かったです。寮長やアシスタントの方に何度も相談しているのですが、根本的な解決には至っていません。長期休暇に入った今は寮に人気が無く、夜も静かなので快適です。ですが、学期に入ったらまたうるさくなるのかと思うと悲しいです。

先月末に寮の移転希望を出したのですが、どうやら引っ越しは難しいということが分かりました。私は現在の寮の部屋の契約期間を帰国予定の12月までとして入居したのですが、その契約を破棄して別の寮の部屋に移るとなると、移った先の部屋の家賃に加え、新しく別の住人が入るまで自分が元々契約していた部屋の分の家賃も払わなくてはならないそうです。当初私は、そのペナルティが課されるのは学外に引っ越し人だけなのかと思っていたのですが、学内の寮の中で引っ越しをする人にも適用されてしまうようです。移転希望は受理されたのですが、まだ移転先の部屋が開くのを待っている状態なので、引っ越しは全く進んでいません。ただ、少なくとも私が今住んでいる寮は、後期から新しく入居を希望している人がほとんどいないようなので、引っ越しを考えている人はほぼ確実に2部屋分の家賃を払うことになる状況だそうです。もし2部屋分の家賃を払うとなると、月に20万円ほど支払わなくてはなりません。そんなことはとてもできないので、引っ越しは難しいと考えています。渡航前は寮に入ってしまうえば生活の面は一安心だと思っていましたが、案外そんなこともないようです。こちらでの勉強はとてもやりがい

あつて頑張ることができるのですが、住んでいる環境が悪いと精神的にとても追い込まれてしま
います。正直しんどいです。